

サステナブル投資とESG投資について

(その関係性と国連との関係など)

1. サステナブル投資とESG投資について

サステナブル投資とは、経済・環境・社会の持続性に配慮した投資手法であり(sustainableとは「持続可能」を意味する)、投資において経済的なパフォーマンスに加えESGに配慮することがサステナブル投資と考えられます。ESGとは、「Environmental(環境)」「Social(社会)」「Governance(企業統治)」の頭文字を組み合わせたもので、近年、特にグローバル機関投資家の間で、企業の投資価値を測る評価項目としての地位を確立しつつあります。その意味で、基本的には、サステナブル投資とは、投資手法で、ESGとは、企業の投資価値を測る評価項目であることがわかります。

2. ESGについて

ESGの中のEの部分である「Environmental」への取り組みとしては、再生可能エネルギーなどを考慮した循環型ビジネスへの取り組み、製造工程やオフィスの環境負荷の軽減、又は、再生可能エネルギー事業そのものの推進などがあります。

また、ESGの中のSの部分である「Social」への取組みとしては、子育て支援策の充実、女性役職者数の増加、フェアトレードへの支援、施設のバリアフリー化、取引先への労働環境モニタリング、障害者の雇用拡大、人権問題への対応、定年の延長や撤廃等社会問題の解決に向けた施策などがあります。

さらにESGの中のGの部分である「Governance」への取組みとしては、役員のダイバーシティの確保、社外取締役の増員、役員研修の充実、株主との対話の深化などがあります。

このように、ESGは財務諸表には示されない「非財務情報」を示すことが多く、なぜそれが投資価値の指標になるのかが、なかなか理解されない場合があります。営利企業としては、むしろ、これらにコストをかけることは、企業活動の究極の目的である「営利追求」という点からはマイナス要素にも感じ取れます。

3 ESG投資について

投資におけるESGの3つの要素を考慮する「ESG投資」は、あくまで中長期的に見て投資収益を拡大するための投資手法と位置付けられている。投資手法には、設定されたベンチマークを上回る運用成績を目指す「アクティブ運用」とベンチマークから乖離しないことを目指し中長期的な投資活動を行う「パッシブ運用」がありますが、「非財務情報」をいかにデューデリするか、またどのような指標にて判断するのかが非常に難しく思われます。

ESGに似た概念に、「責任投資原則」SRI(Socially responsible investmentまたはSustainable and Responsible Investment)がありますが、SRIは「倫理観」に基づき、投資を通じて社会を良くすることが目的であるのに対して、ESG投資は環境・社会・ガバナンスに十分配慮出来ている企業に投資をすることは長期的な企業価

値向上やリスクの低減につながるという考え方に基づいて行われます。実際、環境対策がハイブリッドカーや電機エコカーを生んだように、また水素エネルギーを活用する車が研究されるように、長期的な視点では、ESGは新たなビジネスチャンスにもつながり得る側面をもっていると言えます。

4.国連の原則や目標について

2006年に国連が提唱した責任投資原則(PRI=Principles for Responsible Investment)には、機関投資家の投資判断プロセスにESGを反映させるべきであることや、投資対象企業にESGに関する情報開示を求めることなどが盛り込まれています。これに署名した機関投資家は、国連に投資の状況を報告する義務が生じるため、ESGを重視した投資を実践せざるを得ません。PRIに署名する機関投資家が増える中、企業の投資価値評価の指標としてのESGの重要性は今後もますます高まって行くと思われまます。

5.ESG投資の規模

ESGに積極的な企業に集中投資する資金の残高は、2015年発表のデータによると全世界で約21兆ドル(約2,500兆円)に達していると言われていています。CSR担当者でもESG投資の流れを意識する人たちは確実に増えています。

6.SDGs「持続可能な開発目標」に関する詳細

前回の(※7)で調べたSDGs「持続可能な開発目標に関するオープン・ワーキング・グループによるSDGs案」
「Sustainable Development Goals」(持続可能な開発目標)の概要を明記します。
(国際連合広報センター作成プレゼン資料から抜粋)

目標1. (貧困をなくそう)

あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

目標2. (飢餓をゼロに)

飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

目標3. (すべての人に健康と福祉を)

あらゆる年齢のすべての人に対する健康な生活の確保、福祉(well-being)の促進

目標4. (質の高い教育をみんなに)

すべての人に対する包括的、公正かつ良質な教育の確保、生涯学習の機会促進

目標5. (ジェンダー平等を実現しよう)

ジェンダー平等の達成 すべての女性および少女のエンパワーメント

目標6. (安全な水とトイレを世界中に)

すべての人に対する、持続可能な水源と水と衛生の確保

目標7. (エネルギーをみんなにそしてクリーンに)

すべての人に対する、手頃で、信頼ができ、持続可能で、近代的なエネルギーへのアクセスの確保

目標8. (働きがいも経済成長も)

継続的、包括的かつ持続可能な経済成長、すべての人に対する完全かつ生産的な雇用と適切な雇用(ディーセント・ワーク)の促進

目標9. (産業と技術革新の基盤をつくろう)

レジリエントな(回復力のある)インフラの構築、包括的かつ持続可能な産業化、およびイノベーションの促進

目標10. (人や国の不平等をなくそう)

国内および国家間の不平等の削減

目標11. (住み続けられるまちづくりを)

包括的、安全、レジリエント、かつ持続可能な都市および居住区の実現

目標12. (つくる責任つかう責任)

持続可能な消費および生産形態の確保

目標13. (気候変動に具体的な対策を)

気候変動およびその影響と闘うための緊急の行動

(付記:気候変動に関する国際連合枠組条約が、気候変動に関する政府間協議の優先的な場である)

目標14. (海の豊かさを守ろう)

持続可能な開発のための海洋、海浜および海洋資源の保存および持続的な活用

目標15. (陸の豊かさを守ろう)

陸圏生態系の保護、回復および持続可能な活用の促進、森林の持続的な管理、砂漠化への対処、土壌侵食の防止および転換、生物多様性の損失の防止

目標16. (平和と公正をすべての人に)

持続可能な開発のための平和でインクルーシブな社会の促進、すべての人に対する公正へのアクセスの提供、あらゆるレベルで効果的かつ責任を伴う、包括的な公的機関の設立

目標17. (パートナーシップで目標を達成しよう)

持続可能な開発のための実施手段の強化および、グローバルパートナーシップの再構築

以上の17目標に向かって、2016年は、各国が「持続可能な開発目標(SDGs)」達成に向けた取り組みに着手する重要な年となります。「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の推進は国連広報局にとって、コミュニケーションに関する2016年の最優先課題です。2016年初に発足した新たな国連コミュニケーション・キャンペーン「私たちの世界を変える17の目標」は、SDGsのメインストリーム化とその重要性の発信、さらには目標の達成に向けた政府、民間セクター、市民社会を含むすべてのステークホルダーによる行動の促進をねらいとしています。1年間にわたる今回のキャンペーンの重点は、既存のパートナーシップを強化するとともに、国連システムの内外を問わず、SDGs関連の主要イベント推進に役立つ新たなパートナーシップを形成することにあります。キャンペーンのウェブサイトとソーシャルメディア・サイト(Facebook、Twitter、Vimeo)は定期的に更新し、SDGsに関するニュースや新しいオンライン・コンテンツを提供しています。SDGアイコンやファクトシート、背景資料、プレスリリースを含め、6つの

全国連公用語で作成された包括的な広報資料は1月1日、SDGsの正式な発足に合わせて発表されました。これらは1年を通じて定期的に更新されるとの事です。(引用:国連広報センター)

7.SDGs「持続可能な開発目標」に関するロゴ

前回でも説明したが、国連広報センターでは、SDGs「持続可能な開発目標」を支援する方に、各ロゴを自由に使えるような仕組みを創っております。日本語版のガイドラインが無いので、まだ普及は困難かと思いますが、今後は個人・法人問わず広がりを見せて行ってくれる事を心から祈ります。

以上